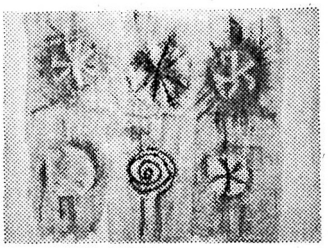
展覧会 京描



仲間伸恵展（3日～22日、画廊匠）　86年度琉球大学教育学部美術工芸科研究生展と題した同画廊企画の一回目。仲間さんは大学では主に染色などを学び、和紙や麻糸などを素材にした表現を試みている。

楮（こうぞ）や雁皮（がんぴ）などからできた和紙を、いったん水にほぐし、裂いて張り重ねる。その過程で、植物染料や土、墨を使い着色。多くの手を加えずに素材感を生かしている。「シュ」、「トウ」、「六つの種」＝写真＝と題した作品など十五点。

美術月評〈2月〉

——仲井間 憲児

和紙の芸術性を素材に　仲間

先走る思いつき

仲間伸恵　TAKUMI

ART NEWSに載った永津氏の紹介が、作者と工程を語う本質の風土性との対話をこころみている、と好意的に解釈してみても、それは単なる筆者の解説にとどまる。結果は素材としての和紙を上回るほどに至っていない。実験の過程、として我慢するにしても、出品されたモノは、常になかった。和紙そのものの既得している芸術性を、まず素材に還元し、その上で紙とい仕上げられたモノとして見られるものである。

る割には、感性は伝わってこ